

様

説明日 年 月 日

担当薬剤師

## ★治療について

レジメン名	1コースの期間	診療科	適応疾患	コース数	コース開始日
IRIS+Bev28	28日間	外科・内科	結腸・直腸がん	コース目	

## ★治療スケジュール

以下の治療スケジュールで繰り返し行います。症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。

投与順	投与経路	薬品名	投与量 投与時間	実際の 投与量	実施日															
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16~28
1	点滴 静注	アバスチン 生理食塩液 100mL	5mg/kg 初回 90分 2回目以降 30~60分	mg	●														●	
2	点滴 静注	グラニセトロ ン (吐き気止め)	3mg/100mL 30分	3mg/100mL	●														●	
3	点滴 静注	イリノテカン 生理食塩液 500mL	100mg/m <sup>2</sup> 90分	mg	●														●	
	内服	エヌケーエ スワン配合 OD錠 (テガフル・キメラ シル・オテラシルカリ ウム)	1.25m <sup>2</sup> 未満 80mg/日 1.25m <sup>2</sup> ~1.5m <sup>2</sup> 100mg/日 1.5m <sup>2</sup> 以上 120mg/日 1日2回	mg/日 1回 錠																
							朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝
							タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ

## ★注意事項など

この用紙は、かかりつけ医や保険調剤薬局の薬剤師へご提示ください。

## ★保険調剤薬局薬剤師の方へ

服薬状況や副作用等報告事項がありましたら、「患者情報連絡書」にて報告をお願いします。

「患者情報連絡書」: 碧南市民病院HP→部門紹介→薬剤部→薬薬連携に掲載

FAX(地域連携室): 0566-46-3774

【緊急時連絡先】碧南市民病院 薬剤部 TEL: 0566-48-5050(代表)

## IRIS+Bev28の副作用について

### ★起こりやすい副作用と発現時期の目安

これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。また、発現時期には個人差があります。

副作用	発現時期(日)														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15日目以降
白血球減少															
貧血															
血小板減少															
肝機能障害															
タンパク尿															
悪心・嘔吐・食欲不振															
下痢															
脱毛															
口内炎															
倦怠感															
色素沈着															
手足症候群															
発疹															
流涙(なみだ目)															
出血															
高血圧															
創傷治癒遅延															

### ★起こりやすい副作用と対策

#### 〈血液検査からわかる副作用〉

#### ● 白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、治療開始後10～14日頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

#### ● 貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

#### ● 血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

#### ● 肝機能障害

肝臓の働きが低下することがあります。そのため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。

⇒お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することもあります。服用中の方は、主治医に申し出て下さい。

#### ● タンパク尿

尿にタンパクが出る場合があります。そのため、定期的に尿を検査し、尿の中のタンパクの有無を調べます。

## 〈ご自分でわかる副作用〉

### ● 悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療時期に合った吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

### ● 下痢

1日3回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、下痢止めを服用して下さい。下痢止めを2回服用しても、よくなる場合は、病院への連絡が必要です。

⇒脱水を防ぐために、下痢または軟便の時は、水分をしっかりと取りましょう。

### ● 脱毛

抗がん剤の種類や患者さん個人によって違いはありますが、治療開始2～3週間後から抜け始めます。髪以外の部分(まゆ毛、ひげ、体毛など)でも同様におこります。治療が終了すれば、少しずつですが生えてきます。

⇒脱毛が気になる場合は、医療用かつらやウィッグ、帽子などをお勧めします。

### ● 口内炎

治療開始1週間ほどで口の中や歯肉がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出ることもあり、うがい薬や口腔用の軟膏を使うことがあります。痛くて食事がとれない場合は、病院へ連絡して下さい。

⇒こまめにうがいや歯みがきをして、口の中を清潔に保って下さい。

### ● 倦怠感

治療開始2、3日後に症状があらわれることがあります。また、治療が継続することで徐々に出てくることもあります。症状が強い場合には、お薬で対応することがあります。

⇒無理に動こうとせず、安静にして様子を見て下さい。

### ● 色素沈着

抗がん剤の影響で顔や手や足(特に指先や関節)、つめが黒くなる場合があります。

### ● 手足症候群

手のひらや足の裏が赤くはれたり、ヒリヒリ・チクチクすることがあります。症状が強くなると、皮膚のひび割れや水ぶくれなど日常生活に支障をきたすおそれがあります。休薬が必要な場合もあるので、痛みが強い場合には、病院へ連絡して下さい。

⇒こまめに保湿剤を使って皮膚が乾燥しないように心がけましょう。

### ● 発疹

### ● 流涙(なみだ目)

### ● 出血

鼻や歯肉、膣などの粘膜から出血することがあります。また、患部から出血することもあります。10～15分たっても血が止まらない場合は病院へ連絡して下さい。

### ● 高血圧

血圧が上がる場合があります。血圧が高いと頭痛をとまなうことがあるので、場合によっては、血圧を下げる薬を使うことがあります。

⇒血圧は、毎日決まった時間に測定し、記録をつけていきましょう。

### ● 創傷治癒遅延(傷が治りにくい)

## ★すぐに連絡をいただきたい副作用

- ★「便が泥状か、完全に水のようにになっている」、「すぐに便意を感じるまたはしぶり腹がある」、「さしこむような激しい腹痛がある」、「トイレから離れられないほど頻回に下痢をする」、「便に粘液状のものが混じっている」(下痢、腸炎)
- ★「倦怠感(だるさ)」、「食欲不振」、「発熱」、「黄疸(目の白い部分や顔や手が黄色くなる)」、「発疹」、「吐き気・嘔吐」、「かゆみ」(肝機能障害)
- ★「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。(間質性肺炎)
- ★「胸の痛み」、「息苦しくなる」、「片方の足の急激な痛みや腫れ」(血栓・塞栓症)
- ★「急な激しい腹痛」、「お腹を押した際に痛む」、「発熱」(消化管穿孔)

※ここに記載した副作用以外にも、体の異常を感じたら病院にご連絡ください。碧南市民病院 (代表)0566-48-5050